

早いもので2025年も残すところ2か月足らずとなっていました。今年の夏は5月の連休明けから始まり、10月まで実に6か月続いたという印象で、しかも猛暑の毎日でした。そしてその猛暑も過ぎ去り、短い秋がやってきています。今年は柿が豊作で、各地でたわわに実っています。それを目にかけてなのか、クマが各地で出没し、クマによる被害が連日のように報告されています。暑さといいクマといい、前代未聞の事態なのではないでしょうか。

さて、本号の特集は「小児の特発性以外の肺高血圧」です。特発性肺高血圧は、まれな重症疾患ですが、それ以外の肺高血圧もあり、特発性と同じく重要な病態です。本号の特集では、小児の特発性以外の肺高血圧についての総論、薬物による肺高血圧、肺疾患による肺高血圧、先天性心疾患による肺高血圧、門脈疾患による肺高血圧、高地における肺高血圧の総説が載っています。先生方には、小児肺高血圧の最先端の特集をご熟読いただくように、お願いいたします。

特集以外にも「食物蛋白誘発胃腸症（FPIES）の臨床的知見と診療実践への応用」「舌下免疫療法は小児のアレルギー史を変え得るか」の2編では、それぞれの領域の最新の話題を概説していただきました。

また「子どもの貧困に医療現場でどう気づくか・

何ができるか」の提言を載せています。日本の経済が細るのに伴い、子どもの貧困は増加していく可能性があります。「経験」では「乳児における抗百日咳毒素抗体価の解釈における課題」として抗体価の解釈への問題点を指摘いただきました。症例報告では「サルモネラ腸炎に伴う急性腎障害（KDIGO stage 3）に利尿剤が奏効し急性血液浄化療法を回避し得た1例」が載っています。

オピニオンの欄では、「ビジョン・ゼロに基づく生活道路における歩行児の交通事故死傷の防止」と題して、道路行政や小児科医への著者の提言を述べていただきました。

目で見える小児科では、「Bicipital synovial cystを呈した全身型若年性特発性関節炎の女児」をいただきました。まれな病態ですが、正しい診断が必要であると思います。「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科学教室から消化器に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、日常診療に役立つ内容になっていますので、ご一読下さいますようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第66巻 第11号 11月号
2025年11月1日発行（毎月1回1日発行）
定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金
定価 49,500 円（本体 45,000 円＋税 10%）
〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14
Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕
Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕
Fax 03-3813-0288
www.kanehara-shuppan.co.jp
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005
広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。